

小田原ガイド協会だより

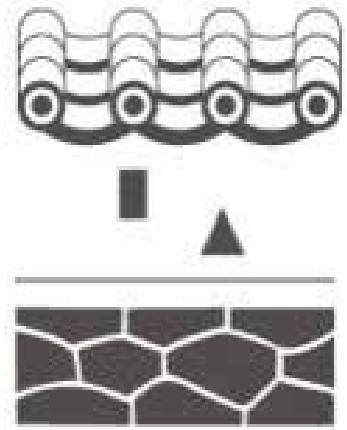
令和2年9月1日発行（秋号・季刊）

NPO法人 小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22（〒250-0014）

TEL.0465-22-8800 / FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>



新型コロナウイルス感染対策における 小田原ガイド協会の運営

森尻 義雄

緊急事態宣言解除後、落ち着くかと思えた感染症の脅威は一向に収まる気配がなく、ついに神奈川県警戒アラートが発令されました。平均年齢七十二歳の当協会にとつて継続的な防染対策と協会員一人一人の責任ある対応が求められています。外出時のマスク着用、施設入場時の手指の消毒、適度な距離感、不要不急の外出の自粛、ガイド業務の全面的中止などの対応で協会員の生活や活動パターンが大きく変わってしまいました。

当協会の担当ガイド業務や受託業務は多種多様にわたっています。関係部門と協議をした上とはいえその殆どを中止としたことは、むしろ感染者を出さないための協会としての積極的な対応だったと思います。

まち歩き、回遊バスの添乗、オープン早々の早川の案内所、

レンタサイクル貸し出しも中止。それらの業務を運営するための各種委員会も中止となり、会員と顔を合わせる機会が激減してしまいました。

四月～六月までは小田原城内を歩く人影も今まで見たこともないほどにまばらになつており、また観光バスもほぼゼロ状態なので、事務所管理に必要な人員のみの配置としたのです。そして残念ながら小田原最大のお祭りである北条五代祭りも中止との決断がなされました。

一番困ったのは一年間勉強してきた養成講座生の修了式や入会式を、簡素な形で行わざるを得ず、また例年の多数のご来賓にも遠慮していただき、既存の会員たちとの懇親の場も設定できず、非常に寂しい思いをさせてしまったことです。さらに四月以降新人として最低限の活動もできず、協会員としての立ち上がりが遅くなつてしまいました。

また今期養成講座受講予定者十四名の講座は開始時期が大幅に遅れたものの、どうか七月開講の運びとなり、カ

リキュラムには何とか三月の修了に間に合う体制で立ち上げることができました。

会員全員が顔を合わせる唯一の機会の年次総会も書面決議とせざるを得ず、協会始まって以来の経験でしたが、無事乗り切ることができました。こういう様々な場面での対応では当協会の団結力の強さを改めて感じた次第です。

現在（八月中旬時点）全国的な感染者の増加傾向は止まらず、今後の見通しもはつきりしません。閉館していた天守閣が六月から開館し、藤棚駐車場も営業を始めました。現在勤務体制を徐々に戻しているところですが、神奈川県警戒アラートの発令もあり、油断は禁物です。防染対策を徹底の上で、城内定点ガイドを手始めに徐々にガイド業務を実施してゆく予定です。十月からは募集型ガイドも開催すべく準備活動を行う運びとなりました。不安を抱えながらの助走体制ではありますが、社会の情勢を勘案しながら少しずつでも前に進みたいと考えています。

小田原城の白壁
ライトアップに感涙

第五回語り手 高橋 絹代

■高橋さんが、お生まれになったのは、どちらですか？

御幸の浜の近くの茶畑と呼ばれるところです。ここは、職人の街で、大工さん、左官屋さん、建具屋さん、畳屋さん、経師屋さん、鳶職の人など、全部そろって、この街で家が一軒できるといわれるほどでした。私は、明治のころから続く家具・建具の家に育ちました。

この近辺は、少し歩くと街の雰囲気ガラリと変わります。西隣の西海子小路はお屋敷街、代官町から東寄りには、漁師と仲買人の街でしたね。

■当時の西海子小路の雰囲気は？
今と同じ武家屋敷の面影を残すお屋敷街でした。中央の道路の東海道側、松本邸のある方は、大き

な邸宅が連なっていて、今もそのままの雰囲気です。海側は細かく分譲されて、だいぶ変わったかな。桜並木は、その頃はなかったです。子供達の遊び場は、路上だから、そこで遊んで……。ピンポンダッシュなんかしたのも覚えてます。呼び鈴を鳴らして逃げて電柱の陰に隠れ、様子をみるのだけど、大きなお屋敷なので、なかなか出てこない。一度くらい鳴らして、やっとお手伝いさんが出てくる。そんな感じでした。

時々、シャキツとした和服の紳士とそれに続いて着飾った女性が道路の中央を歩いてくる。すると、それまで遊んでいた子供たちも、秀囲気を感じて、サーツと脇の方に、まるで大名行列の町人みたいに下がっていく。子供心にも感じるものがあつたんでしょね。いま、考えると、あれはお妻さんだったのかな？

■小田原にはお妻さんの文化があるみたいですね。板橋もそうだし、南町も。その頃の代官町や千度小路は、どんな感じでした？

当時、早川港はまだなくて、漁業の中心は、千度小路だったから、活気がありました。漁師たちが行きかかったり、浜で網を繕ってたり……。

地引網も盛んで、網元の人が夜明け前の四時頃「網がかかったよ〜！」と大声で町内に触れ回ります。すると大人も子供も、容器を持って集まってくる。みんな網を引くのを手伝うんです。終わると、持ってきた容器にめいっぱいシリウスを入れてくれる。透明でピチピチしてて、おいしかった。

御幸の浜も遊び場でした。夏は砂浜に降りていくと、そこに「茶店」が並んでいました。いまでいう「海の家」ですけど。そこから波打ち際まで、長い砂浜が続いてました。足裏が熱くならないよう、砂の上に板が敷かれていて、そこを通って、海へ行く。海の水で体が冷えると熱した砂の中に転がって、とても気持ち良かった。

■小田原城の天守が復興された頃は？

中学生でした。今の東曲輪の近くに塾があつて、そこから城郭が徐々に完成していくのを見るのが楽しみでした。石垣と漆喰の白壁が美しく、特に夜にライトアップされた時は感激しました。その頃は、ライトアップなんて珍しかったから。

小田原にも誇れる観光施設ができてうれしく感じました。

■ちなみに初デートは？

高校生の頃、早川港の、今のOTTOCOあたりに初日の出を見に行きました。その頃、交換日記が流行っていて、その人も、中学の同級生で交換日記をした男子です。

■高橋さんにとって、小田原というのは、どんな街ですか？

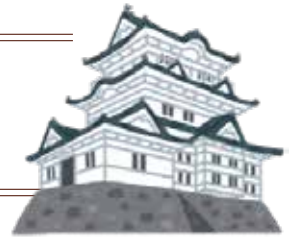
保守的だけど、とつてもやさしい街……。かな。小田原評定つて言葉があるように、物事がなかなか進まない。自由通路や駅前ロータリーの拡張なども、だいぶ昔から言われているのに、実現したのはつい最近のこと。でも、この街に住んでる人たちは、みんなやさしい。古い城下町だけど、今、小田原は変わろうとしている。どんな姿になるか楽しみです。

(文責：編集部)



『よみがえる小田原城
史跡整備30年の歩み』より

とっておきのガイド術聞かせて!



設問です →

- ①ガイドする時、何を心掛けていますか?
- ②こういうガイドはダメだというのはありますか?
- ③好きなコースや印象に残っているコースを教えてください
- ④その他、ガイドに関して思っていることはありますか?

- ①お城ガイドの時などは、初めに「どこからいらしたのですか?」「お城の前はどこへ?」などと尋ね、お客様の反応があってからガイドします。
また目に見えるものを対象にガイドをするように心掛けています。
- ②予定時間を越さず、少し早めに終わらしましょう。お客様が興味を示さないガイドはやめましょう。
- ③好きなコースは「石垣山コース」です。箱根火山と丹沢の山並みと相模湾を堪能でき、お客様に合わせて山、ジオ、植物、歴史の話ができるから。
「小田原用水コース」も印象に残っています。風祭の採石場、板橋取水口、小田原市内の本流、分水、山王の溜池跡まで歩きました。火山、岩石、地層に興味のある方々を募集しましたので、熱心に話を聞いていただき、たくさんの質問も出て楽しい一日でした。
- ④何を話してよいか分からなくなった時には、新聞やテレビの世間話をする。次に、目に見えている場所の土地の由来、名前の由来を話すように心掛けましょう。そうすれば自然と次の話が湧いてきます。

真木和男さん



桜木直子さん

- ①お客様の安全や時間管理はもちろんですが、コミュニケーション、つまり心が通じ合うことを大切にしています。
- ②自分よがりのガイドでしょうか?
例えば、自分の説明に酔うかのように、ダラダラと長いガイドや、周りの景色で充分説明できるのに、自分の写真資料の中でのみ説明をするガイド。
- ③印象に残っているのは、小田原駅西口から豊臣勢陣場を見ながら、辻村植物公園への道、かっこよくて、ちょっぴり気難しい辻村伊助を思いながら歩く道です。6年前の2月、前日は、大荒れの台風でした。河津桜が咲き、冬の丹沢や箱根の山々、雪を被った大島と台風明けの相模灘。「こんな景色は、初めてだ!」とガイド協会の大先輩が感嘆の声をあげられた。歩くにつれ変わっていく風景に感激するうち、雪の梅林に着きました。
- ④小田原ガイド協会は、ボランティアの団体ですが、いつもプロ意識を持ったガイドでありたいと思っています。歴史的説明は専門家には及びませんが、小田原を訪れたお客様に感謝の心を持ってこれからも接していきます。



- ①単なる説明でなく、お客さんが実感できるガイドを心掛けています。
例えば、一夜城なら、北条小田原城を眼下に眺め、天下統一を夢見た秀吉の姿が思い浮かぶようなガイドをしたいと思います。
そのために地図やイラスト入りの資料を造り、トコトン説明します。
自分では「TVのワイドショー」型と思っています。
- ②知ってることを次から次へと箇条書きふうにししゃべるガイドは好きじゃない。
単なる知識の切り売りに思えるからです。
ひとつの事象は多くの事に繋がっていきます。
一度自分の頭の中で咀嚼して、なぜそうなのかを考え、テーマをもってガイドしてほしい。
- ③実行委員の間でカンカンガクガクの議論をし、ワイワイガヤガヤと行った企画ガイドは、みな思い出に残ります。
- ④ガイド協会のガイドは、リレーのようなものだと思います。先輩から後輩へ、良いところを見習って、自分の型を造っていくのが王道だと思います。

戸田博史さん



誘拐犯罪と解明に尽力する刑事たちを描く著名な作品。その身代金受け渡しシーンに酒匂川鉄橋が登場する。

事件の発端。製靴会社の重役権藤（三船敏郎）宅に「子供を誘拐した」という電話が入る。が、誘拐されたのはお抱え運転手の子供だった。次の電話で「子供を間違えた。でも：お金はお前が出すんだ」といわれ、権藤は葛藤・逡巡・苦悩の末、払うことを決断する。電話の声は「厚さ七センチ以下の鞆に札束を詰めろ。それを持って明日の特急第一二こだまに乗れ」というもの。なぜ七センチ以下なのか？ 観客も疑問を持つ場面だ。映画前半の展開は、ほぼ権藤邸のリビングで推移し、まるで緊迫した舞台を観ているよう。そして急に列車が疾走する場面へと動的に転換し、酒匂川を渡る車中からの身代金投下シーンへと続く。

件のシーンはまず犯人から列車電話が入り、以下のやり取りとなる。権藤「いま国府津駅を通過したところだ」電話の声「よし、ぴったりだ……。あと二三分で酒匂川の鉄橋にかかると：子供はその鉄橋のたもとで見せる。子供を見たら鉄橋を渡り切ったところで鞆を投げる」この内容を同乗の刑事に伝える。刑事は間髪入れず「特急の窓は

おだわら シネマニア ①

酒匂川鉄橋

上田 信一



【写真】上：現在の酒匂川鉄橋
中と下：映画の1シーン

天国と地獄

黒澤明監督作品
1963年/モノクロ/143分

感が半端ない。瞬時に過ぎてしまふ。事後に酒匂川の堤で誘拐された子供を無事保護するシーンが続き、これで前半が終わる。車中シーンの撮影は前年の十月某日、実際に東海道線を走るこだまの全車両を借りきって行われた。当然撮り直し不可のぶっつけ本番だ。スタッフは入念な準備と事前のテスト撮影を繰り返し行っていたが、本番二日前、

当時、新幹線鉄橋は完成していて鴨宮モデル線（小田原〜綾瀬付近約三〇キロ）でテスト走行が行われていた。映画では下流側（進行方向左）のみの描写となったので、上流側の新幹線鉄橋は殆ど映っていない。そして昭和五四年（一九七九）平塚〜小田原間の複々線化に伴い、下流側に隣接して東海道線旅客専用線が新設された。これにより従来の東海道線は貨物線専用となった。映画撮影当時、左岸の二階を取り払った家や子供と犯人（共犯者）が立った河原、そして右岸のもうひとりの共犯者が鞆を拾った場所も、現在では新設された旅客用東海道線の下あたり、と思われる。後半は犯人（山崎努）を徹底的に追い詰める刑事たち（仲代達矢ら）の姿が描かれ、タイトルのモチーフともいえるべき象徴的なラストシーンへと続く。権藤が犯人と刑務所で対面し、犯人は云う「私のアパートの部屋は、冬は寒くて寝られない、夏は暑くて寝られない、その三畳から見上げるとあなたの家は天国に見えましたよ。毎日見上げてくるうちに段々あなたが憎く

臥牛山に築かれた
近世屈指の山城「備中松山城」

小菅悟志



備中松山城高石垣

東京への通勤電車の中で歴史小説に魅了され、定年退職を機に、一眼レフを片手に、全国お城巡りを始めた。早、七年になる。時刻表をめくり、綿密な旅行計画を立て、二泊三日の一人城旅が定番となった。宿泊は駅近のビジネスホテル、移動は電車・バスなどの公共交通機関、使用しない。時間が読めないからだ。

今回は岡山から伯備線高梁を下車、天空の城塞「備中松山城」を訪れた。「見上げればお山の上に建つ天守」の如く、中世と近世の城郭様式が融合した日本三大山城の一つである。NHK大河ドラマ「真田丸」で映し出されたほどの、野面積高石垣の重層する姿は圧巻である。折れ曲がりの土塀通路を見渡し、各所に守備兵が配されていたことを想うと、背筋が寒くなるほどの鉄壁の守りを実感する。ここまで守りを厳重にする必要があったのだろうか。この城は備中の要衝としての役割を担い、激戦が繰り広げられたことが見え隠れする。

帰路の山道で「本丸まで後どれくらいですか？」と、赤ちゃん二人をそれぞれ前抱っこしている若いご夫婦に話しかけられた。真夏の汗だくの中、大変な思いをしても訪れたい地なのかと、つくづく感心してしまふ。そういう私も同じである。

山の頂より、今も見つめる悠久の刻を楽しみ、麓から二時間もの山道を克服したご褒美であり、もう一度訪れたい「名城」であった。

【2020年『秋』の企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

件名	日時・集合場所	参加費	コース
I 江戸時代を越えて！ 今と昔を検証します (酒匂川徒渡し・家康今井陣場)	10月17日(土) 約7.5km 9時～13時頃 JR 鴨宮駅集合	700円	鴨宮駅～酒匂川の渡し～ 今井陣場～蓮上院土塁 ～かまぼこ通り 解散
(仮称) II おだわら絶景ウォーキング 風さわやか西部の里山を歩く	11月21日(土) 約7km 9時～14時頃 小田原駅西口三省堂前集合	700円	小田原駅～八幡山古郭～ 辻村植物公園(昼食) ～小田原市役所 解散
(仮称) III 古戦場歩き —回遊バス利用—	12月(日付未定)	未定	石垣山一夜城～ 石橋山(武家社会発祥の地)

- ・各コース参加申込みは実施日の4-5日前からです。小田原ガイド協会HPでもご案内しております。
- ・新型コロナウイルスの感染状況等により、延期・中止の場合があります。

【六月以降の退会者】

阿部正治郎さん

ありがとうございました

【編集後記】

新型コロナウイルス。避けることができない禍で、各種メディアで多く取り上げられています。いずれも情報過多状態で「正しい情報を、もっと端的に、伝えられないのかなあ」と感じます。私は新聞の購読を中断、報道番組の視聴も短縮してしまいました。また、好きな旅行は取りやめ、自宅に埋もれている書物の読み直しで外出を自粛しています。人類の歴史は、細菌やウイルスとの戦いと云っても過言ではないと考えていますが、これに怯えることなく慎重に取り組み、乗り越えたいと思っています。

なお、今号から編集委員が一部入れ替わりました。オンライン会議やメールのフル活用など、コロナ禍に対抗する手段を細やかに試みました。よろしくお願ひします。

(M・I)

【編集委員】

飯田宗男(委員長)
磯崎知可子 戸田博史
柏木由美子 上田信一

令和2年度賛助会員

賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。
賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

	☎ 0465-		☎ 0465-
鱒 壺 北 條	25-1932	田 中 屋 本 店	22-5545
伊 勢 屋	22-3378	だ る ま 料 理 店	22-4128
う い ろ う	24-0560	欄 干 橋 ち ん 里 う	23-1547
魚 市 場 食 堂	23-3818	露 木 木 工 所	22-5995
江 嶋	22-1661	東 菟 庵	22-4657
小 田 原 種 秀 本 店	22-6238	烏 か つ 楼	22-2078
籠 清	22-0251	菜 の 花	24-5688
籠 常 商 店	23-1807	箱 根 屋 酒 店	22-6416
柏 木 美 術 鋳 物 研 究 所	22-4328	小 田 原 早 川 漁 村	24-7800
カ ネ タ 前 田 商 店	23-4741	平 井 書 店	22-5370
居 酒 屋 金 時	23-0721	松 崎 屋 陶 器 店	24-2479
幸 繁	22-5155	マ ツ シ タ 靴 店	24-2233
グ リ ル 木 の 実	22-2912	丸 う 田 代	22-9222
さ が み 信 用 金 庫	24-3161	万 葉 の 湯	23-1126
志 村 屋 米 穀 店	24-2224	柳 屋 ベ ー カ リ ー	23-2342
杉 兼 商 店	22-5051	山 市 湯 川 商 店	22-5637
鈴 廣 か ま ぼ こ	22-2333	山 安	21-1137
せ き し ん 運 輸	42-7375	R Y O	20-0077
田 毎	24-3030	わ ら べ 菜 魚 洞	22-4858

【50音順】